



猛烈なまき返し

再稼働はならぬ！

再稼働のための

新基準

六月十九日、原子力規制委員会が原発の新しい規制基準を決定し、七月八日施行となりました。衣を替えただけの規制委員会はハナから「再稼働ありき」。国内で唯一稼働している大飯原発の運転継続をめぐり、直下に活断層があると指摘されているのに、「満点」をとらなくても運転を認める方針を出しました。これに乗じて、電力会社が一斉に再稼働申請に動き

出しました。

たとえ新基準で「満点」

をとったとしても事故は防げないし、安全を守ることはできません。防災計画は全く無力です。再稼働のための新基準、新たな安全神話をつくるものと言われています。

福島過酷事故の原因も、

現状もいまだ説明できず、収束の見通しも全くない、汚染水は日々増え続け、使用済み燃料プールは危険な状態で放置されています。放射性廃棄物の行き場はありません。三〇

万人もの人々が故郷を追

われて彷徨い、放射線管理区域であるはずの地域に多くの人々が「ふつうの生活」を強いられています。

こんな現実の中で、原

発再稼働、海外に売りさばくなんてありえない！絶対に許されないことです。

今でも七〇八割の人は

原発反対。原発をなくす道筋はまずは再稼働をストップさせることから。安倍の登場で巻き返しが加速し、参議院選挙後に

は再稼働の嵐が吹き荒れ

るでしょうが、地元の住民と連帯しながら、消費地・大阪など大都會で「再稼働やめろ！」の声を真剣にあげていきましよう。

再稼働1年

大飯現地へ

一年前、大飯原発の再稼働を阻止すべく、逮捕覚悟で身体をはり、夜を徹して若者達やミュージシャン、全国からかけた人々が闘いました。(Kさんは事後逮捕され

半年間拘留。七月十七日福井地裁で判決)。ふたたび全国各地で原発と闘う人々が呼びかけ、六月二九日と三〇日、「福井から未来へ！原発のない世界を！福井現地 全国集会」がもたれました。

両日のべ八五〇人が参加しました。

一年前、私はネットの生中継で壮絶な闘いを垣間見ていました。その後運動の発展、そして襲いかかった弾圧との闘い。年季の入った活動家と新たに立ち上がった人々が全国各地から互いに結びあって駆け抜けるように一年間を闘いぬいてきた、その獅子奮迅にはただだ

だ頭がさがります。

今年こそ現地へ！と思っ
てきました。南労会闘
争報告集の修正原稿のチエッ
クを何とか深夜には終ら
せることができ、早朝、
出発しました。

若狭ゆずり木平和祭

一日目は小浜市の明通
寺が会場。八〇〇年代に
建立された重厚なお寺で
「若狭ゆずり木平和祭」
と銘打ち、多彩な企画が
行われました。八時間を
越える音楽祭、自然農法
や自然食などで食べ物をつ
くっている家族の出演、
ミニ集会や映画上映、講
演会など等。

住職・中嶋哲演さんは

四〇年間、原発反対運動
に身を投じてこられた方
で、若きミュージシャン

たちの熱き想いに応えて、
地元の皆さんの協力もと
りつけて下さり、国宝や
重要文化財のあるお寺の
一角を提供してくださっ
たそうです。険しい山と
谷、豊かな自然に囲まれ
た静寂な古寺に、「喧騒」
といっっては失礼だが「は
ちようび」のロックが響
き渡り、北海道からこら
れたアイヌの方は参院選
出馬の訴えと民族楽器と
踊りの講演をされたり…
と脱原発が切り結んだ前
代未聞のコラボでした。
到着前に終ってしまい残
念でしたが、昨年の港合

同秋まつりに参加された
趙博さんも出演。

闇深ければ光も強し

夜は、本堂に数百人が
所狭しと坐り、講演会。
元東海村原研研究員で京
都工科大学名誉教授の木
原壮林さんと中嶋哲演さ
ん、御二人が二時間半に
わたり講演されました。

木原さんの講演は核問
題の全面展開。中嶋さん
は今回の企画の意義を高
く評価され、平和と脱原
発に身を投じてこられた
仏教徒としての必然を語っ
ておられた様に思います。
中嶋さんのレジュメか
ら拾った言葉です。

●闇深ければ光も強し

● 見えない闇（放射線被曝がもたらす闇）
 ● 共同目的（再稼働を止め、脱原発）で協働を！

大飯三、四号機 一年間動くと二基の炉内にたまる死の灰は広島型原爆の二千発分、生成されるプルトニウムは長崎型原爆の六〇発分最後にインド音楽を鑑賞し、外に出ると深い闇と静寂、見上げると降り注ぐような星空でした。

全国集会とデモ

翌日は朝からおおい町へ移動。大島公民館で午後から全国集会、その後大飯原発ゲート前まで

デモを行いました。午前中には原発立地の各地で反対運動を続けてきた住民団体の交流・討論会ももたれました。

集会は鎌田慧さんの講演に始まり、経産省テント、福島、各地の反対運動から…と発言が続きました。「原発いらぬ福島の人たち」の黒田節子さん（郡山）の訴えを一部ご紹介します。

「子ども達を動かして！」

ここもそうですが、緑と海、美しく自然豊かなところが原発で根底から傷つけられています。郡山でさえも安全ではない。子ども達が学校で履いているジャージを検査した

ところ三〇〇ベクレルが検出された。放射性物質として嚴重に保管しなければならぬレベルのもの子ども達が身につけている。今、行われているのは住民を軒先で分けること。細かい複雑な区域わけ、異なる補償。問題の本質が何かに目をむけさせない。除染の問題も深刻。百ミリシーベルト以上のところまで除染。若者が防備もなく除染労働に、低賃金で狩り出され被曝させられている。文句を言えばやくざが出てくる。検査はまだ一部の段階で十八歳未満の子どもに二七人、ガンの疑い。福島で人体実験がや

られている。命より経済が大事な政治。子ども支援法にかかわってきた水野氏があの発言。大きな失望と怒り。日々子どもたちの命が脅かされている。早く、子ども達を動かさなければ。保養や疎開が必要なのです。

現地は精一杯頑張っている、原発で作った電気を使っている都市部こそ現地、次はあなた達が共通の敵にむかって闘おう——と叱咤も。

大いに考えさせられ揺り動かされた二日間でした。

N支部 ○